



# 京都障害者雇用企業サポートセンター NEWS LETTER

## 目で聴き、体で感じてほしいメッセージ

～働く障害者の立場から～

### 「職場での偶然の出会い、共感から生まれた音楽」

9月8日に開催した平成28年度京都障害者ワークフェア(裏面参照)にて、特別企画として障害者4人の音楽バンドである「4Disabilities(よん ディサビリティーズ)」を招待し、その素晴らしい演奏を参加者全員で楽しみました。今月号のニュースレターでは、働く障害者の立場から発信し続ける彼らのメッセージを、インタビューを通して紹介します。

誰もが暮らしやすい社会実現への一助になればとの思いを込めて。

(実践アドバイザー 谷垣信也)

#### ■ 活動のきっかけは?

会社の夏祭りでは他のバンド演奏を観ていた時、既にサインダンスをやっていた西田が「他人の思いが綴られた曲ではなく、自分の感情を伝えられる曲をつくってダンスしたい」と和田に話しかけ、意気投合したのがきっかけ。どうせやるなら仲間が多いほうが楽しいと、メインボーカルの本村とリードギターの田中が合流して4人でバンドを結成。美しいハーモニーとサインダンスによる目でも聴ける音楽が誕生した。

自分たちの音楽で伝えたいことは、障害のある人に前向きに頑張してほしいとか、頑張っている僕らを見てくれなどという偉そうなことではなく、「こんなことを普通に感じているのですよ」というのを、みんなに気付いてほしいという素直な気持ち。

#### ■ サインダンスは特徴的であり、ダンスそのものも魅力的ですね。

ボーカルが歌い、その横で手話通訳をするという、いわゆる手話歌という概念を覆したかった。だから、伝えたいことを体全体で表す。手話という通訳ではなく、サインダンスという表現でダイレクトに歌詞の背景にある喜びや悲しみのストーリーを感じてほしい。歌を映像に変えるということかな。

メッセージを伝えるだけでなく、いろいろな人に楽しんでほしいという事にもこだわっている。ボーカルや楽器演奏者は舞台後方においても、音が聞こえる人には聞こえる。でもそれだけではなく、音と歌詞とダンスが一つになったときに、より表現力が増すと思っている。だから、しっかり見て体全体で感じてくださると、西田は舞台の中央前方でパフォーマンスしている。

#### ■ 「インフルエンザがうつっても良いからマスクを外してくれ」など、歌詞に込めたメッセージにも心を打たれました。どんな時に作品が生まれるのでしょうか?

実際に経験した日常の出来事をベースにして、自分たちの思いを入れたオリジナル曲を歌うことにこだわっている。自分たちで経験したことを「伝えてやるぞ」というより、まずはできるだけ多くの人に「知ってほしい」という気持ちでいる。



京都障害者ワークフェアで演奏する 4Disabilities

#### 【メンバー紹介】

ワンダー：和田直也（リズムギター、ハーモニカ、ハモリ）

トモ：本村智之（メインボーカル）

ミキティ：田中幹人（リードギター）

ターカ：西田敬康（サインボーカル）

オムロン京都太陽株式会社、および太陽の家京都事業本部で働く社員。職場では4人ともリーダークラスで、バリバリと働いている。休日を中心にバンド活動を実施。最近是小中学校の授業へ呼ばれて、講演と演奏をすることも多い。

ホームページ <http://4disabilities-world.jimdo.com/>

ウラ面へ

企業視点でバックアップする専門窓口

## 京都障害者雇用企業サポートセンター

センターのご利用はすべて  
無料

〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町70 京都テルサ東館2階

TEL:075-682-8928 FAX:075-682-8949

【ご利用時間】月曜～土曜日/9時～17時(日・祝、年末年始休み)

<http://www.pref.kyoto.jp/jobpark/sksc.html>

京都障害者雇用企業サポートセンター

検索

また、障害のある人に勇気を与えたいとも思う。障害があるからもうだめだと思っている人がいたとする。もちろん自分の体の機能への苛立ちや、障害者扱いされた経験の中での不安もあると思うが、僕たちの歌でそれらを一つでも二つでも解消できればいいなと。そして、障害があってもこんなバンド演奏もできるということや、自分たちのありのままの姿を見てもらって勇気を与えたい。

#### ■ 日常の出来事をわかりやすく伝えていますが、あえて、企業へのメッセージをいただけませんか？

障害者雇用も一般雇用も同じで、人の成長を共に喜んでくれる企業であってほしい。

「なぜ？」というオリジナル曲があるのだが、そこで伝えたいメッセージを一言言うなら「習うより慣れよ」ということ。障害者雇用は難しいと尻込みするのではなく、まず雇用してみましょう。お互いがお互いの違いを知ることによって第一歩を踏み出せるのではないかと思います。

たとえば、西田は会社で手話教室を開催し、みんなとコミュニケーションの輪を広げて仕事の効率を上げたし、和田はリーダーとなってより重要な役割を担い、今は部下が働きやすい環境をつくらうと努力している。本村も田中も現場のリーダーとしてみんなの信頼を得ている。こんなに成長できたのは、僕らを一人の人間として見てくれた会社との間でWin-Winの関係ができたからかな。

#### ■ これからやりたいこと、夢は？

それぞれのメンバーには個々の夢があるが、4Disabilitiesとしては障害者・健常者関係なく、一人ひとりが認め合い、存在し得る社会をつくるために貢献したい。今、一番うれしいのは子供たちへの公演。子供たちはすぐ自然だ。いろいろな反応もあるが、僕たちの公演を経験することで障害のある人と接するのが身近になる。その子供たちが大人になったときには、それが普通の社会だと思えるようになるはずだ。

今、新しい曲を作っている。これまで、障害について知ってほしいということテーマに曲を作ってきたが、新曲では障害者・健常者関係なく、「人として大切なことは何か」というメッセージを伝え

ていきたい。それをバイブルとして、自分たちも成長していきたい。



#### 「デフロック」の歌詞（一部抜粋）

補聴器をつけているからと  
 いて必ずしも  
 全て完全に聴こえるわけじゃない  
 メガネやコンタクトのように  
 見えるようになるのとは  
 全然違うんだあ  
 毎年の冬に必ず起きてる  
 インフルエンザが流行る時の事  
 揃いも揃ってどこのどいつも  
 予防のためにとマスクをつけやがる  
 マスクをしたら声は籠る  
 口の動きも読み取れない  
 補聴器見た時自然な思いやりで  
 マスクを外してくれ ええええ  
 WOW WOW  
 風邪になっても俺はかまわない  
 WOW WOW  
 高熱が出て俺は幸せさ  
 WOW WOW  
 君がマスクを外してくれたら  
 WOW WOW  
 優しい君に恋しちゃいそうさ

#### インタビューを終えて

- ◇ 障害とは、たとえば聴覚障害であれば耳が聞こえないという状態のこと。車いす利用者であれば足が不自由で歩けないという状態であるだけだ。そんな状態だけに注目するのではなく、一人の人間としての心を知ってほしい。これが彼らの歌の根底にはある。
- ◇ 初めて聴く4Disabilitiesの音楽は驚きと感動である。サインダンスとともに歌詞の光景が「あるある」と目に浮かぶ。二度目に聴くと美しいハーモニーとともに彼らのメッセージがじわっと胸にしみこんでくる。そう、誰もが暮らしやすい社会は、一人ひとりの少しばかりの思いやりと行動で実現に近づくのだと。

## 平成28年度 京都障害者ワークフェア開催報告 【9月8日実施】

### ～各企業・団体の積極的な取組継続を～

京都府では障害者雇用に関する理解を広め、雇用の促進を図ることを目的に、障害者雇用支援月間である9月に京都障害者ワークフェアを開催しています。今年度は9月8日(木)、グランドプリンスホテル京都にて250名の参加のもと開催し、障害者雇用に精力的に取り組まれた企業・団体や優良・永年勤続勤労者など11団体、17名を京都府等より表彰しました。また、障害のある方を積極的に雇用している企業を京都府が認証する「はあとふる企業」の認証式では、今年も新たに15事業所を認定し、京都府全体で98事業所となりました。式典に引き続いて、日本写真印刷株式会社より「わが社の障害者雇用の取組について」の講演がなされ、精神・発達障害の雇用管理などにおける先進的な事例を参加者全員で共有しました。

京都府内における障害者雇用数、就職者数は年々増加していますが、障害者雇用の更なる促進のため、オール京都で総合的な取組を進めてまいります。今後とも各企業・団体の積極的な取組をお願いします。



#### 編集後記

9月は障害者雇用支援月間として様々なイベントが開催された。私もそれに関わる者の一人だ。しかし、4Disabilitiesのメンバーと話していると考えさせられる。障害者・健常者という区分ではなく、所詮、人間は人間でしかない。社会が成り立つためには最低限のルールで十分であり、大切なのは人が心と心を通わせることだ。法で定められた障害者雇用率や納付金制度…このような言葉が不要となる社会を期待したい。